

徐放性製剤の代替薬を提案した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、術後に内服薬を懸濁して投与することとなった患者について、持参薬の粉碎・懸濁可否を確認し、徐放性製剤の代替薬を提案することで、有効性および安全性の向上に寄与したプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▶原疾患に対する手術目的で入院された患者

【持参薬（一部抜粋）】

- ・ニフェジピン CR 錠 20mg 1 回 1 錠、1 日 1 回
（※高血圧症に対して使用）



A さん



看護師

手術された A さんについて、明日から持参薬が再開になりますが、術後で錠剤が飲めないため、薬剤を懸濁して服用する予定です。持参薬の内容を確認してもらえないでしょうか。

情報提供をありがとうございます。確認して、また連絡しますね。

持参薬確認後



薬剤師

A さんの持参薬ですが、降圧薬のニフェジピン CR 錠を服用されておりました。徐放性製剤であり、粉碎や懸濁することができない薬剤です。代替薬としては、同効薬のアムロジピン OD 錠が候補になるかと思しますので、担当医に提案してみますね。薬の成分が変わりますので、念のため血圧の推移に注意してください。ニフェジピン CR 錠以外は、粉碎・懸濁可能な薬剤です。



ありがとうございました。血圧に注意しますね。

その後、担当医にアムロジピン OD 錠への変更を提案し、提案通り処方された。アムロジピン OD 錠に変更後、血圧は基準値内で推移した。持参薬の粉碎・懸濁可否を確認し、徐放性製剤の代替薬を提案することで、有効性・安全性の向上に寄与できた。

ニフェジピン CR 錠などの徐放性製剤の取り扱い時の注意について、PMDA より医療安全情報が発出されております。

<https://www.pmda.go.jp/files/000251752.pdf>
No.65 (2023 年 3 月)

POINT 安全使用のために注意するポイント

- 徐放性製剤は、有効成分の放出速度等を調節することによる、投与回数の減少、薬効の持続、副作用の低減等を目的として開発された製剤です。
- 製剤の特徴が販売名から読み取れない徐放性製剤が粉碎、分割して投与される事例が繰り返し報告されています。



徐放性製剤を粉碎、分割して投与したり、患者が噛み砕いて服用すると、急激に血中濃度が上昇し、重篤な副作用が発現したり、期待する薬効が得られない恐れがあります。

急激な血圧低下

呼吸抑制

意識レベル低下

徐放性製剤のイメージ（例）

